

平成28年度 京都市立上賀茂幼稚園の教育



1 教育目標

いきいきと 心豊かな たくましい子ども

園長 伊藤喜昌

【教育目標の思い】

いきいきと…身の回りの環境に興味や関心をもち、夢中になって、とことんやろうとする姿

心豊かな…嬉しさや楽しさ、怒り、悲しみ、寂しさを言葉や体を使って、互いに感動したり共感し合ったりする姿

小動物や植物との関わりを通して命を大切にしようとする姿

たくましい…試行錯誤を繰り返し、くじけない、がまんする、やり抜く姿

2 めざす幼稚園像

- ・楽しくて、安心して活動できる幼稚園
- ・美しく清掃され、保育環境が整えられた幼稚園
- ・子どもを真ん中にして保護者とともに子育てを進める幼稚園
- ・地域と結ばれ、信頼される幼稚園

3 めざす子ども像

- ・夢中になって、とことんやろうとする子ども
- ・感動したり、共感したりする子ども
- ・自分の思いを言葉や体を使って表現しようとする子ども
- ・思いやりの気持ちをもち、命を大切にしようとする子ども
- ・葛藤を繰り返しながら、やり抜く子ども

4 めざす教職員像 「教職員及びそれらを支える教職員」

- ・「子どものために」を信条に、熱い思いをもち、初心を忘れず意欲的に教育活動を進める教職員
- ・「こだわりのある保育」を信条に、教材研究し、保育のあり方を研究し、進んで公開保育をしたり保育参観をしたりする教職員
- ・「自らが高まることは、子どもが高まること」を信条に、あらゆる機会をとらえて自己研鑽し、その成果を教育活動に生かそうとする教職員

- ・「いつも子どもの（が）そばにいる」を信条に、子どもとの出会いを喜び、保護者、地域と共に教育活動を進めようとする教職員
- ・「環境整備は教育の出発点」を信条に、美しい場づくりや保育環境づくりに努める教職員
- ・「教職員は子どものモデルである」を信条に、服装、態度、言葉使い等に気を配り、けじめをもって活動し、社会人として、公務員として、自覚をもって生活する教職員
- ・「時を活かし、場を美しく、襟を正す」そして「笑顔」を忘れない教職員

5 めざす園長像

- ・保育についての専門性を高める。
- ・園児や教職員とともに活動する。
- ・P T Aや地域の方々との連絡を密にする。
- ・保護者の子育てに対する相談に寄り添い、共に考える。
- ・教職員の健康と安全に気を配る。

6 経営方針

- ・地域の文化遺産や自然など地域の特性を生かした教育を進める。
- ・めざす教職員像を追求しながら、教職員の和によって、めざす学校像・めざす子ども像にせまる
- ・子どもに「後伸びする力をつけるための遊び」について研修を進める。
- ・見逃さない、許さない人権意識の高揚のための人権研修を行う。
- ・発達や学びの連続性を踏まえた幼保小の交流及び連携を進める。
- ・子育て支援の充実を図り、園と家庭との連携を深め、家庭の教育力を高める。
- ・地域の人材を活用する取組を進める。

7 実践活動

（1）保育の充実

- ・教育課程に基づいた計画的な環境を整える。
- ・地域や園内の豊かな自然環境や保育環境を生かした教育活動を行うとともに、京都や地域の伝統文化にも参加する。
- ・支援を必要とする園児に対する手立て・対応を考えていく。
- ・保育の様子が分かるよう情報発信を積極的に行う。
- ・規範意識を高めるための方法を考える。
- ・計画的な人権研修を行い、人権意識の高揚を図る。

(2) ゆとりのある行事

- ・行事の見直し、充実を図る。
- ・職員会議の能率化と充実を図る。

(3) 環境整備

- ・徹底的に美しい幼稚園にする。

(4) 未就園児の子育て支援推進事業（教育相談事業）

- ・たまご組（0～2歳児）金曜日 午前10時～12時
- ・ひよこ組（3歳児）月～木曜日 午前9時30分～11時30分

(5) 家庭との連携

- ・PTA役員との連携を深め、PTA活動を充実する。
- ・親の育ちや親の心の問題をテーマに家庭教育講座を計画する。
- ・学校評価（毎日の情報交流・アンケート）を行い、保育に生かす。

(6) 幼・保・小・中・大連携

- ・交流行事を実施する。
- ・研修や打ち合わせなど相互理解を推進する。
- ・生き方探求やチャレンジ体験を受け入れる。
- ・学生との交流を積極的に行う。

(7) 地域との連携

- ・地域行事や園行事での交流を行う。
- ・地域の人材を活用する。
- ・学校評価により園に対する意見をもらう。

(8) 学校運営協議会の充実

- ・年4回実施する。（総会2回、定例会2回）
- ・園活動に積極的に関わってもらう。
- ・組織作りに力を入れる。